

7月23日(火) タイ調査団 来訪報告書

先週 23 日(火)にタイ調査団が来て JACIC の小川部長の話等をプレゼンしたので報告します。

○日 時：令和元年 7 月 23 日(火)13:00～16:00

○場 所：3F AB 会議室

○調査団：「日本の公共調達を研究する大学と地方電力公社の合同調査団」

○来 客：タイチュラロンコン大学の先生 6 名+タイ地方電力公社(PEA)6 名=計 12 名

○経 緯：大阪大学矢吹先生からの依頼。先生の中に大阪大学の留学経験者が 1 名存在。ウェブで JACIC の動きに興味あった。

○対 応：JACIC 側から、深澤理事長・小川経営企画部長のほか、河内・瀬戸下・石渡（国際グループ）と栗原・桔梗 7 名出席。



1. プログラム(一部英語のみ、一部日本語—タイ語の逐次通訳)

- 1) JACIC 理事長の歓迎挨拶 (英語)
- 2) パトサパン講師からプレゼンテーション (研究テーマについて、英語)
- 3) 小川部長、日本の公共調達に関する予定価格の作成方法、発注・監理の方法など説明
- 4) 質疑応答 (通訳を通じて)
- 5) 調査団代表からのコメント
- 6) 記念品の贈呈・集合写真そのほか



2. 状況の説明

タイ地方電力公社では、配電のためのサブステーションを建設しようとしているが、これまでの方法では問題が多いので、新しい方法はないかとチュラロンコン大学に相談があり、共同研究として日本の状況を調査にやってきた。日本の公共調達の中で、特に「予定価格の計算方法」と「質の悪い建設業者のコントロール法」が2つの大きな聞きたいテーマ。これに対して、前者に対しては「建設物価」「積算資料」の実物を見せて毎月調査しているという話を、後者に対しては工事毎の評点をつけて次に生かしている話などをしたところ、日本のレベルの高さに痛く感心していた。総合評価方式が普及しているというグラフもインパクトが強かった模様。JACIC で聞いた内容が良かったのか、再びまた調査に来たいとのコメントもあった。

3. 相手の質問から

- 1) 材料単価の調査は、建設会社に対して行うのか？ 資材会社に対して行うのか？ 企業が価格を公開しない心配はないのか？

- 2) 物価変動がある時は、どうするのか？ 平均的な物価指数のようなものは使わないのか？
- 3) 工事で良い成績（評価）を受けたら、次の別の工事でも考慮されるのか？ 全ての工事で評価しているのか？
- 4) 工事の評価に不服を持つ業者はいないのか？ そんな時はどうするのか？
- 5) 工事の遅延損害金は、いくらで決めているのか？
- 6) 中央政府の発注の仕方と、公社・公益会社の発注形態は違うのか？ 等

以上